

3. 歩行者系の観光案内サイン

(1) 観光案内サインの種類

○本ガイドラインで取り扱うサインの種類は、図解標識、指示標識、周遊促進標識及び補足標識の4種（形状は8種類）とする。

歩行者系の観光案内サインを整備するにあたっては、仕様の混在、重複した案内、情報過多等を避けることを重視し、使用する標識の種類を以下のように定め、統一的な整備を進めることとする。

本ガイドラインで取り扱う図解標識、指示標識、周遊促進標識及び補足標識の機能概要を以下に示す。

表 1 歩行者系サインの種類と機能概要 (1/2)

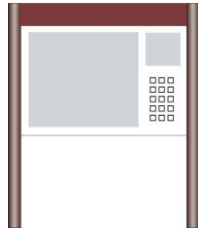


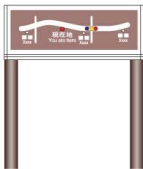
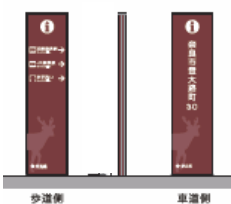
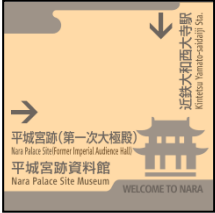

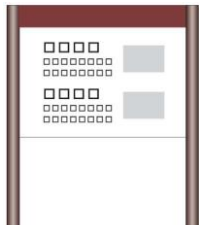

種類	機能概要	形状	姿イメージ (例)	適用
図解標識	地図をメインに表示し、現在地、周辺観光施設等の位置関係を面的に把握させる。	支柱		地図はデフォルメされたものではなく、距離や歩道が正確に表示されたものとする。 ※原則は「地図を用いた道路案内標識ガイドブック」(2003年11月、国交省道路局監修)の附録1の基本仕様(案)に準拠
		短冊 (地図有)		

表1 歩行者系サインの種類と機能概要 (2/2)

種類	機能概要	形状	姿イメージ (例)	適用
指示標識	目的とする観光施設等への方向および距離等を表示し誘導させる。	矢羽根		見通しが悪く、先へ進むことをためらうような区間で、図解標識が設置困難な場合等は経路の先に何があるかを表示した「経由地案内標」の設置も可能とする。 
		短冊 (地図無)		
		フットサイン		
		古道等サイン		
周遊促進標識	主要観光施設周辺において、次への周遊を促進するために、特徴・魅力等を写真等とともに提供する。	支柱		指示標識と併設し、案内施設を整合させる。
補足標識	起終点までの距離等を表示し、誘導させる。	古道等サイン		古道等において、指示標識の補足として設置する。

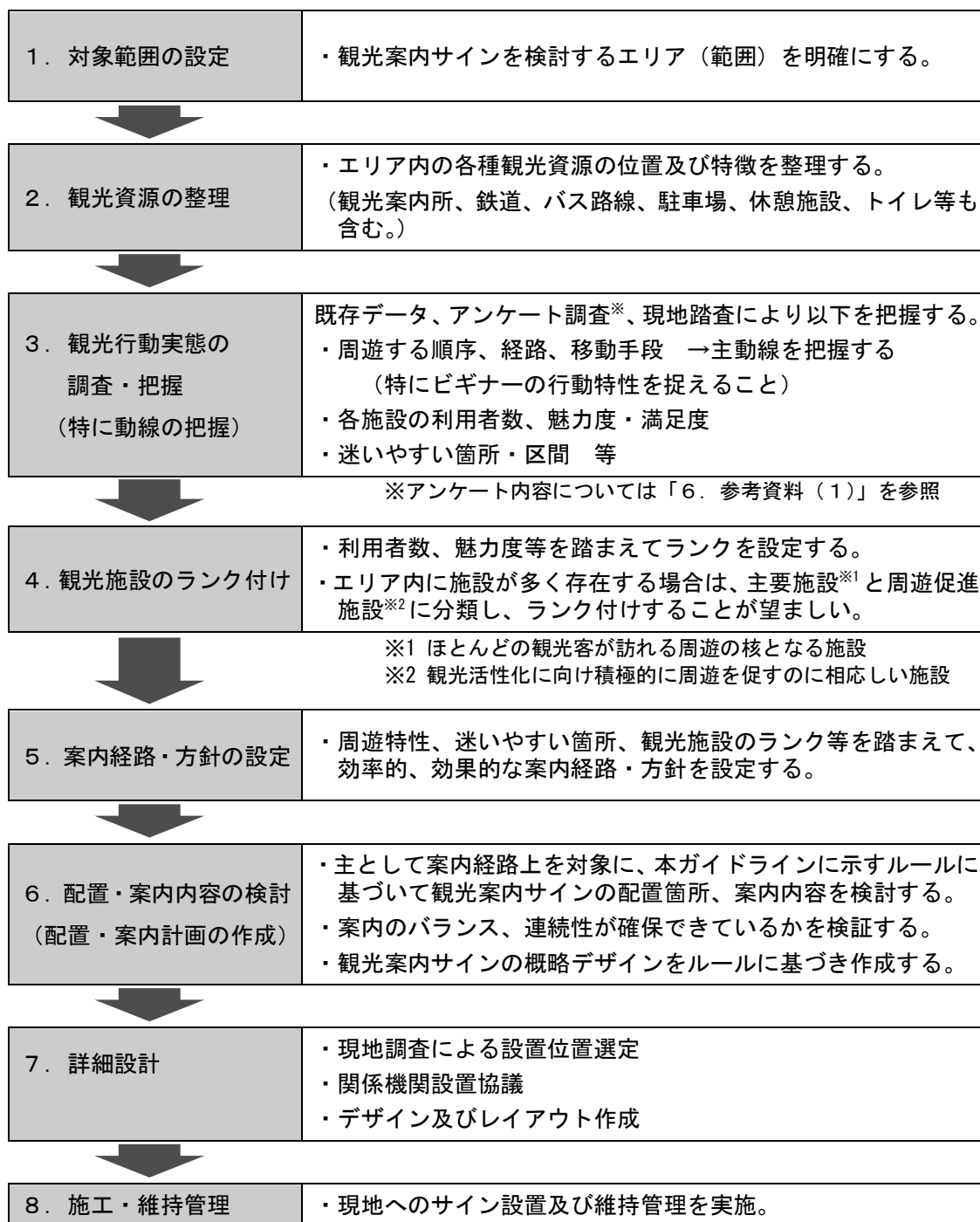
※上記の各案内サインの表示内容については、以下に示すとおりである。

図解標識…P15、指示標識…P20、周遊促進標識…P25

(2) 観光案内サインによる検討手順

1) 検討のフロー

検討は以下のように進めることを基本とする。



2) 歩行者系の観光案内サイン整備にあたっての視点

○歩行者系の観光案内サインを整備するにあたっては、初めて訪れる人でも迷うことなく快適に目的地に辿り着け、思わず寄り道や長居をしたくなるような案内体系を実現し、リピーターの増加、地域のPR、周遊促進を図ることを重視する。

歩行者系の観光案内サイン整備にあたっての視点を以下に示す。

- 視点1：初めて訪れる人にもわかる案内 → 土地勘のない人を前提とする
- 視点2：観光客の情報ニーズに即した案内 → 観光情報の他、トイレ、休憩所等
- 視点3：周遊性を高める案内（下図参照）

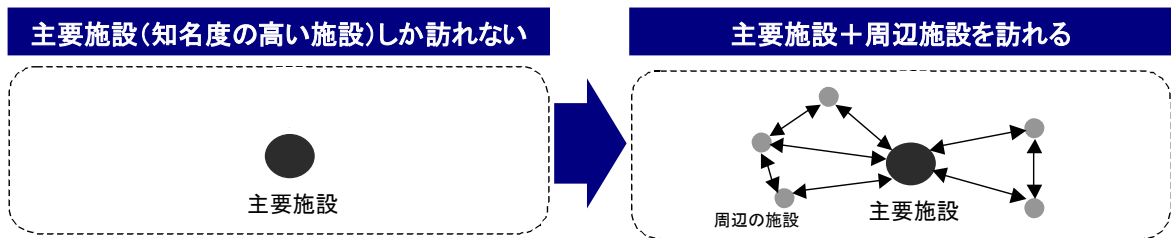


図2 周遊性を高める案内のイメージ

3) 対象範囲の設定

○歩行者系の観光案内サインを整備する対象範囲は、観光客が徒歩で周遊できる主な観光施設及び主な交通拠点（駅、主要な観光駐車場等）が含まれる範囲を基本として設定する。

【参考：奈良公園周辺における対象範囲の設定例】

奈良公園周辺における歩行者系の観光案内サインの整備対象範囲の設定例を以下に示す。奈良公園周辺においては、主要な観光施設及び最寄り駅である近鉄奈良駅を含む範囲を整備対象範囲とした。

ただし、JR奈良駅についても観光行動の起点として重要であるため、JR奈良駅と奈良公園方面を結ぶ主要な動線である「三条通り」を、補足的に整備対象に加えた。

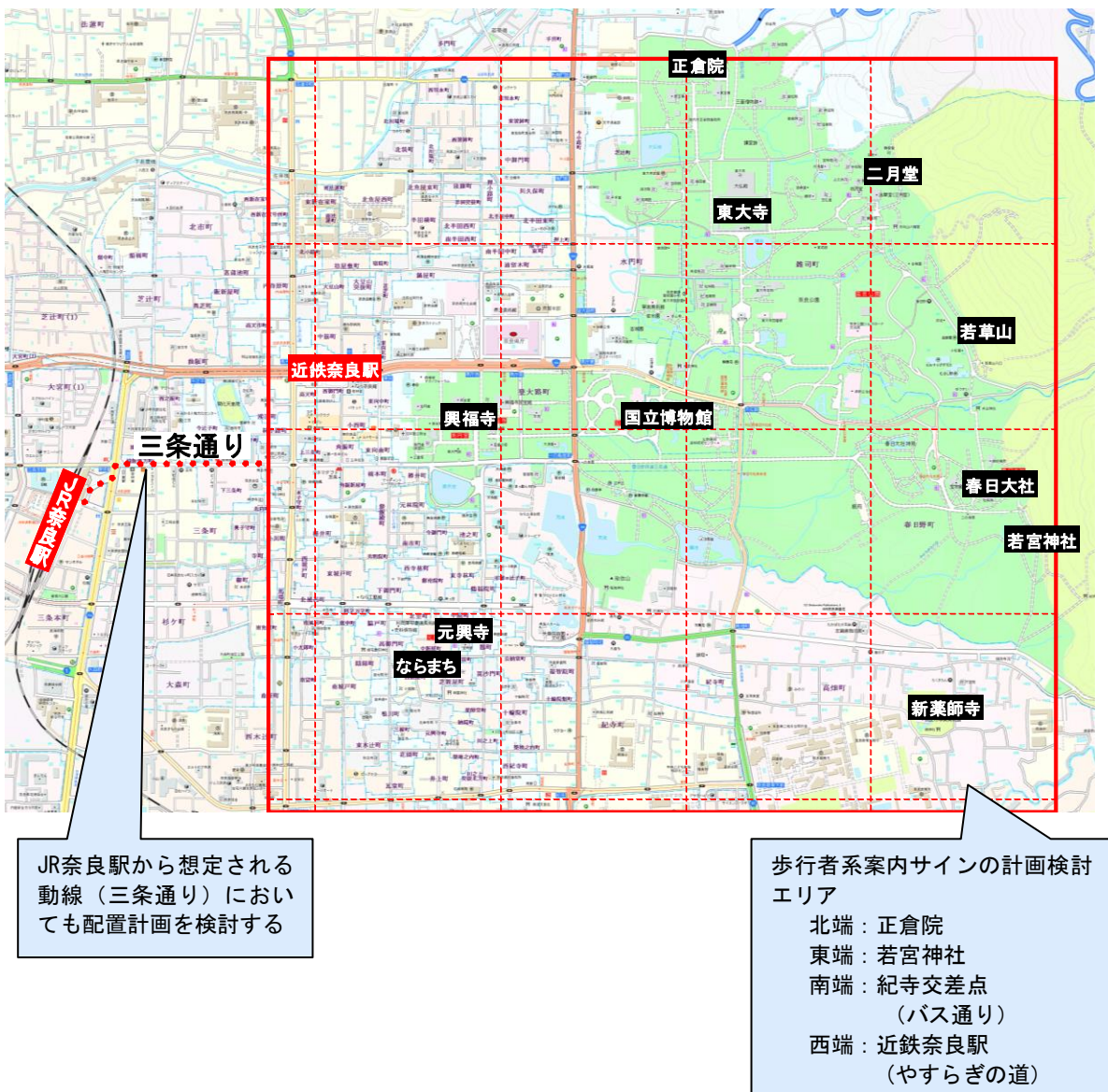
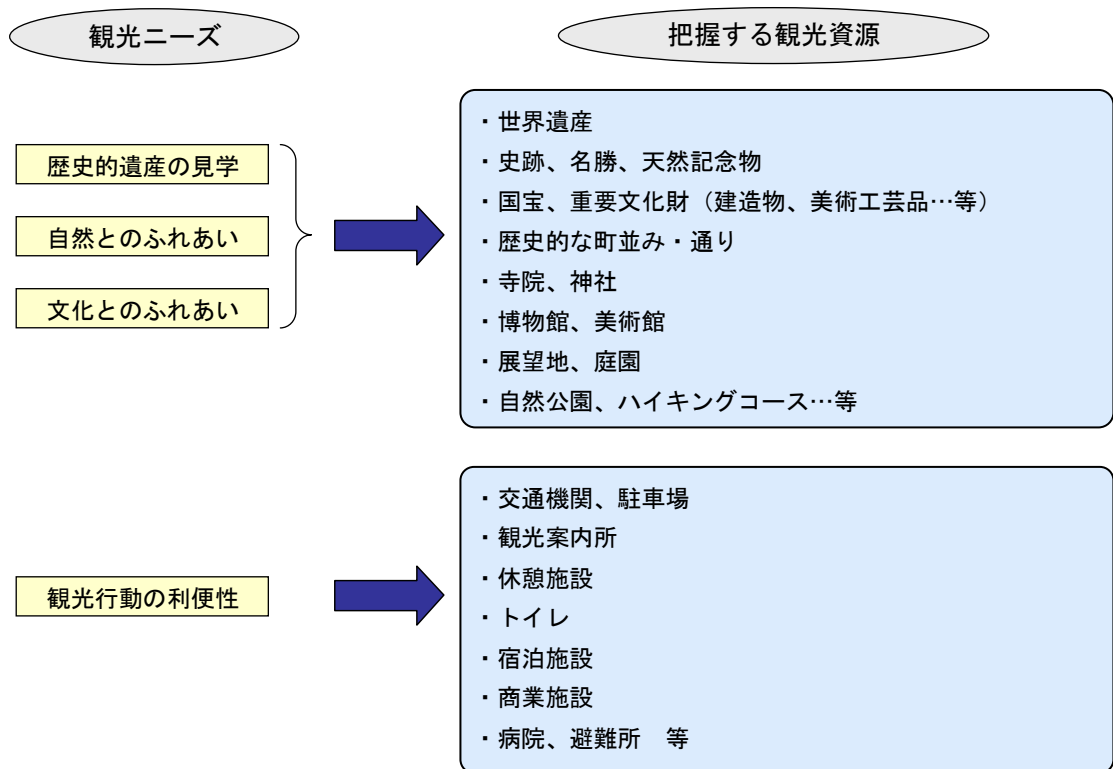


図 3 奈良公園周辺における対象範囲の設定例

4) 観光資源の整理

○観光資源の整理にあたっては、著名な観光施設だけでなく、様々な観光ニーズを満足するよう、複数のメディア（観光ガイドブック、観光協会等発行の地図、観光案内所、インターネット等）を使って、対象範囲内の観光資源を抽出し、位置及び特徴等を整理する。

案内誘導する施設は、奈良を訪れる観光客の多様なニーズに対応するため、地域特性を考慮して以下のような観点で観光資源を抽出する。



抽出した観光資源は、地図上にプロットして位置関係を整理するとともに、その特徴を簡潔な文章で一覧整理する。

5) 観光行動実態の調査・把握

○既存データ整理、アンケート調査、現地踏査等により、交通拠点及び観光エリア内の主動線の現状、各観光施設の利用者数や満足度、迷いやすい箇所や区間等を把握する。

対象観光エリアを初めて訪れる観光客（ビギナー）は、リピーターに比べて迷いやすいことから、特にビギナーの行動特性を捉えるよう配慮して、現状調査を行う。

アンケートは、各エリアの特性に応じて必要な事項を検討して行うこととするが、観光行動の実態を把握する為に、以下のような項目を含めることが望ましい。

- ・観光エリアへの来訪経験
- ・観光行動の起点・終点
- ・訪れた観光施設（はじめから順に3箇所程度）
- ・訪れた観光施設の満足度（魅力度）
- ・訪れた観光施設の個別の来訪経験
- ・起終点及び各観光施設間の移動手段
- ・通行したルート（地図上に記入）

なお、平成21年に奈良公園周辺で実施したアンケートの調査票サンプルを巻末に掲載する。

6) 観光施設のランク付け

- エリア内の観光資源の分布状況及び観光行動の実態調査結果を踏まえて、歩行者系の観光案内サイン（指示標識及び周遊促進標識）で誘導すべき施設を抽出する。
- 観光資源が多数ある場合は、観光客の周遊特性を踏まえて、来訪者が多く周遊の核となる施設を選定するとともに、観光の満足度向上の視点から積極的に周遊を促すにふさわしい施設をランク付けした上で選定する。

観光行動実態の調査の結果から、特に来訪者の多い施設は、当該観光エリアにおける周遊の核となる「主要施設」と位置付ける。

また、「主要施設」だけでなく、多様な観光資源に接して観光の満足度を向上してもらうことを目的として、周遊を促進すべき魅力的な観光施設「周遊促進施設」もあわせて選定する。

【参考：奈良公園周辺における案内対象施設選定例 1/2】

奈良公園周辺は観光資源が多数あることから、以下のように周遊促進施設のランク付けを行った。

表 2 奈良公園周辺における案内対象施設選定例

分類	定義	観光施設の選定
主要施設	現状で来訪者の多い施設	<ul style="list-style-type: none"> ・東大寺 ・興福寺 ・奈良国立博物館 ・春日大社
周遊促進施設	観光満足度向上の視点から、主要施設から派生的に周遊を促すのにふさわしい施設	以下の条件を指標として観光施設をランク付けし、周遊促進施設を選定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・魅力度評価（アンケート結果）の高い施設 ・見どころの豊富な施設（国宝・重要文化財等がある） ・奈良市からの推薦がある施設…等

奈良公園周辺で指示標識及び周遊促進標識で誘導対象とする施設は、右図のランク付け案における「A ランク」の施設とした。

		Aランク	Bランク	Cランク
文化財指定等	入場可	国宝がある施設	重文がある施設	
	制入限場		国宝がある施設	重文がある施設
自治体意向		奈良市の推薦有		
知名度満足度		アンケートで魅力度高得点	アンケート自由意見に記載有り	観光ガイドに記載有

【参考：奈良公園周辺における案内対象施設選定例 2/2】

■奈良公園周辺におけるランク付け設定例

名称	国宝	重要文化財(国指定)	奈良市の推薦	アンケート魅力度高得点	アンケート自由意見記載有(5人以上)	ガイドブック	ランク	公開制限(閉鎖日)	概要	備考
若草山			○			○	A	夏季・冬季	毎年1月に山焼き。夏季・冬季は芝生保護のため入山が規制される。	東大寺周辺
新薬師寺 しんやくじ	○	○		○		○	A		本尊木造薬師如来坐像〔国宝〕とそれを囲む等身の塑造十二神将立像〔国宝〕が有名。	春日大社周辺
春日山原始林 (春日山遊歩道から見学)		○(春日山石窟仏)	○		○	○	A		1000年以上手つかずの常緑広葉樹林からなる原始林。特別天然記念物。世界遺産。	
滝坂の道(柳生街道・東海自然歩道)		○(春日山石窟仏)	○			○	A		柳生街道の一部で、道沿いに多くの石仏がある。東海自然歩道。春日山遊歩道と一部並行する。	
入江泰吉(いりえ たいきち)記念奈良市写真美術館			○		○	○	A	月曜日休	奈良の風景や仏像を撮り続けた故入江泰吉氏の作品を展示。	
志賀直哉旧居			○		○	○	A	木曜日休	志賀直哉が昭和4年から9年間住んだ旧居。	
浮見堂			○			○	A		奈良公園・鷺池に浮かぶ檜皮葺き(ひわだぶき)、八角堂形式(六角形)	国立博物館周辺
県立美術館			○		○	○	A	月曜日、年末年始休	主に奈良県下で活躍した芸術家の作品を展示。	県庁周辺
元興寺 がんこうじ	○	○	○			○	A		6世紀末に開かれた法興寺(飛鳥寺)が、平城遷都に伴い移転された。かつて大寺院の建物のうち、僧坊(極楽坊)の一画が現存。収蔵庫には国宝等多数保存。世界遺産。	
十輪院	○	○				○	A		珍しい石仏龕(せきぶつがん)(重文)	

名称	国宝	重要文化財(国指定)	奈良市の推薦	アンケート魅力度高得点	アンケート自由意見記載有(5人以上)	ガイドブック	ランク	公開制限(閉鎖日)	概要	備考
手向山八幡宮 たむけやまはちまんぐう		○				○	B		東大寺大仏建立にあたり、東大寺守護の神としてまつられた。紅葉の名所。	東大寺周辺
氷室神社		○			○	○	B		氷池や氷室をつくり、天候を呪ったのが始まり。献氷祭ではコイ等を封じ込めた氷柱が供えられる。	
依水園・寧楽美術館 いすいえん・ねいらくびじゅつかん		○			○	○	B	火曜日休	若草山や東大寺南大門などを借景として取り入れた池泉回遊式庭園。園内の寧楽美術館では東洋古美術品を展示。	
円窓亭		○				○	B		春日大社経庫を改造したもの(鎌倉時代)。	博物館南側
頭塔 ずとう		○				○	B		奈良時代の13個の石仏が3段にわけて配置されている。いずれも天蓋を有しているのが特徴で、美術的価値も高いもの。	

名称	国宝	重要文化財(国指定)	奈良市の推薦	アンケート魅力度高得点	アンケート自由意見記載有(5人以上)	ガイドブック	ランク	公開制限(閉鎖日)	概要	備考
シルクロード交流館						○	C	月曜日、年末年始休	「ならシルクロード博覧会」の足跡やシルクロードの歴史と文化、奈良とのかかわりなど展示。	東大寺周辺
吉城園 よしかえん						○	C	火曜日休	依水園に隣接。日本庭園と離れ茶屋から成り、春日山、若草山を借景として取り入れている。杉苔が美しい。	東大寺周辺
子規の庭(天平倶楽部)						○	C		正岡子規ゆかりの地に、句碑とともに子規が好んで詠んだ草花を植え、東大寺大仏殿と若草山を借景とする庭園	
片岡梅林(奈良公園内)						○	C		円窓亭を取り囲むように植えられ、地名から片岡梅林と呼ばれている。	博物館南側
奈良県商工観光館 (きてみてならSHOP)						○	C	月曜日、年末年始休	県内の観光と商工業をPR的に紹介。	興福寺周辺
藤岡家住宅		○				○	C	水曜日(現在閉鎖中)	江戸時代に建てられた商家(重要文化財)。	
誕生寺 たんじょうじ						○	C	不定	當麻寺本尊の當麻曼荼羅を織った中將姫誕生地。	
徳融寺 とくゆうじ						○	C		もとは元興寺の別院。當麻寺本尊の當麻曼荼羅を織った中將姫ゆかりの寺	

7) 案内経路・方針の設定

○各観光エリアにおける観光資源の種類や分布状況、観光客の周遊特性、迷いやすい箇所等を踏まえて、効率的、効果的な案内経路・方針を設定する。

観光客の周遊特性を踏まえて、「主要施設」と「周遊促進施設」とを効率良く周遊できる案内経路（主経路・周遊促進経路）を設定し、それに応じた案内方針を設定する。

また、迷いやすい区間や経路が特定できないエリアについては、別途その経路の状況に応じた案内方針を設定することとする。

表 3 主経路と周遊促進経路の定義

案内経路の区分	定義
主経路	主要施設間の往来のために、多く使われている経路
周遊促進経路	主要施設を起点として、周遊促進施設へ導くための経路

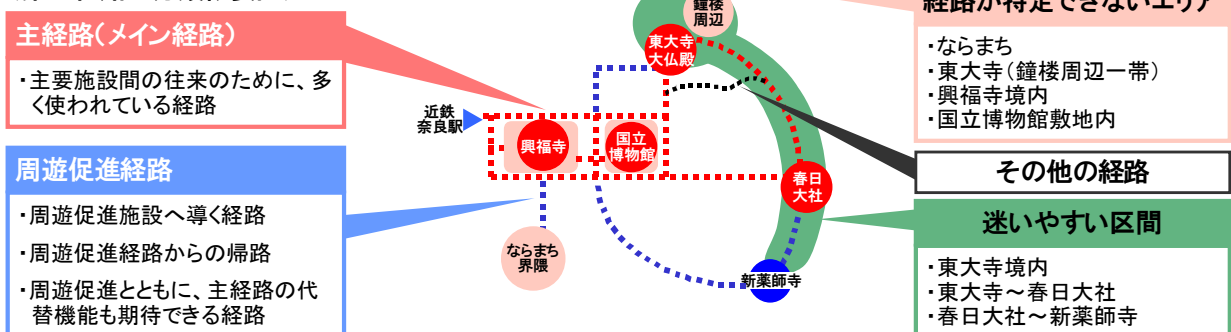
【参考：奈良公園周辺における案内経路・方針の設定例】

奈良公園周辺における観光客の周遊特性を踏まえて、主経路・周遊促進経路を設定するとともに、迷いやすい区間等を把握した上で案内方針を設定した。

表 4 奈良公園周辺における案内経路・方針の設定例

案内経路の分類		経路上での案内方針
主経路	主要施設間の往来のために、多く使われている経路	とにかく、主要4施設まで確実に導くことに力点を置く。
周遊促進経路	主要4施設を起点として、周遊促進施設へ導くための経路	まず、興味・関心を持ってもらい、そこまで確実に誘導する。
迷いやすい区間	迷った人の数・割合が多い区間	不安にならないよう手厚く案内する。
経路が特定できないエリア	施設や道路が密集し、さまざまな経路をとりうるエリア	経路誘導型ではなく、経路を特定しない面的な案内を行う。
その他の経路	その他、公園内の主な散策路	迷い込んだ場合でも方向が判るよう案内する。

(案内経路の分類概要図)



(3) 観光案内サインの案内内容

1) 歩行者系の観光案内サインで提供すべき情報

○歩行者系の観光案内サインで提供すべき情報は、観光客が求める情報のうち、観光施設や休憩施設等の位置関係やそこまでの経路、ならびに利用に関する情報とする。

観光情報の案内手段には、歩行者系の観光案内サインの他に、観光案内所、手持ちの観光マップ・ガイドブック、パソコンや携帯電話等の機器というように多岐にわたる。

このような案内メディア毎に提供できる観光情報の量や、その長所・短所は異なるため、相互に補完・連携しあい、総合的な案内体系として機能させることが必要である。

そこで、他メディアとの役割分担を考慮し、歩行者系の観光案内サインで提供すべき情報の位置付けを図4に整理する。

「歩行者系の観光案内サインで提供すべき情報（赤枠部分）」の“位置関係・そこまでの経路”に関する情報は、主として「図解標識」及び「指示標識」で対応し、“利用情報”に関する情報は、主として「周遊促進標識」で対応する。

観光客が求める情報	位置関係・そこまでの経路	利用情報 〔・概要説明 ・利用時間 …等〕	一時的な情報等 〔・特別展 ・臨時休業 …等〕
・現在地情報	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; display: inline-block;"> 本案内サインで提供すべき情報 </div>	—	—
・現在地周辺の歩行環境(横断歩道等)		—	インターネット等の情報提供
・観光施設等		手持ちマップガイドブック等の情報提供	
・トイレ、休憩施設等			
・交通機関等			
・宿泊施設等			
・飲食店、土産店等			

※宿泊施設・飲食店等については案内対象としないこととするが、大規模施設はランドマークとして地図上に表示する。

図4 歩行者系の観光案内サインで提供すべき情報の位置付け

2) 図解標識に表示する情報

- 図解標識は、原則として「地図を用いた道路案内標識ガイドブック」（2003年11月、国交省道路局監修）の附録1の基本仕様（案）に準拠する。
- 図解標識の凡例部分には、基本的に外国語（英語、中国語（簡体字）および韓国語）を併記する。

a) 支柱

■構成

図解標識は、「地図を用いた道路案内標識ガイドブック」（2003年11月、国交省道路局監修）に示された基本原則を踏まえたものとし、「主地図」、「広域図」及び「凡例」を基本的な構成要素とする。

■縮尺・向き

主地図は、1/1,500の縮尺で、1m×1mのサイズを基本とし、1.5km四方を表示する。対象範囲が広い場合は1/2,500等、縮尺を変えても良いものとする。ただし、1つの案内対象エリア内の主地図の縮尺は統一すること。また、使用単位は「km」、「m」とする。

広域図は、当該観光エリア全体の範囲を表示する。

地図の向きは、主地図・広域図ともに、立っている位置から移動方向を伝えやすい現場合わせ式とする。

■表示内容

主地図には、一般的な情報として、表5、表6に示す施設等を表示することを基本とするが、観光施設の重要度（ランク）に応じてピクト等で目立たせる等、メリハリをつける。なお、文字の大きさやピクトグラム等については、P59以降を参照。

また、案内経路のうち主経路を、「主な観光コース」として地図上に表示する。

広域図には、主地図の表示範囲を示すとともに、主要なランドマークと重要度の高い観光施設のみを表示する。

主地図及び広域図内の四隅のいずれかの位置にスケール、方位、設置年月を配置する。また、設置者も表示する。現在地の位置は地図中心を基本とするが、観光エリアの特性や設置位置の状況に応じて適宜調整する。

裏面（車道側）で車の誘導を実施する場合は、行き先や住所についても表示する。

■色彩

地図上で多くの色を用いると繁雑になることから、色数を押さえて必要最小限を表示することを基本とする。

また、図上の表示は視認性に配慮して、図色と地色の明度差を大きく（5以上を目安）し、赤と緑、彩度の低い色どうし（灰色と薄緑等）等、色覚障害者が判別しにく

い色の組み合わせを避けることとする。

凡例部分には、基本的に外国語（英語、中国語（簡体字）及び韓国語等）を併記する。

b) 短冊（地図有）

支柱で規定している「構成」「表示内容」「色彩」の内容に準じて作成する。

「縮尺・向き」の規定は以下に示すとおりである。「表示内容」の規定は以下を加える。

■縮尺・向き

主地図は、1/1,500 の縮尺で、0.55m～0.6m×0.55m～0.6m のサイズ、250m～1km 四方、対象範囲が広い場合は縮尺を変えても良いものとする。ただし、1つの案内対象エリア内の主地図の縮尺は統一すること。また、使用単位は「km」、「m」とする。

広域図は、当該観光エリア全体の範囲を表示する。

地図の向きは、主地図・広域図ともに、立っている位置から移動方向を伝えやすい現場合わせ式とする。

■表示内容

図解標識について、施設誘導の表示数は、表面・裏面ともに最大3施設とする。

一般的情報として図解標識に記載する施設は、国土地理院の地形図の表示基準をもとに、見やすさを考慮して選択することとするが、徒歩観光客に重要な情報として、トイレ・観光案内所等の公共的施設や、駅の出口・バス停等の交通施設、官公庁等のランドマーク等はわかりやすく表示する。

以降に表示情報の一覧を示すが、各地域毎に街の広がり、密度、観光利用者の特性等が異なっていることから、地図の表示範囲や情報内容も地域に合わせて検討する必要がある。

なお、使用するピクトグラムを巻末に掲載する。

表 5 主地図に表示することが望ましい一般的情報

○：表示情報(地図の見やすさを考慮し、適宜選択する。)

		地図に表示する一般的情報	ベース マップ	ピク ト グラ ム	名 称
ベ ー ス 図	地形・地盤	山、湾、島、半島、河川、湖、池、堀、港、埠頭、運河、棧橋	○		○
	道 路	道路	○		○
		歩道	○		
		歩行者専用道路等	○		○
		ペDESTリアンデッキ、横断歩道橋	○		○
		地下横断歩道・階段部	○		○
		横断歩道	○		
		踏切	○	○	○
	地 点	インターチェンジ	○		○
		交差点(信号機)			○
		有名な橋、トンネル 等	○		○
	交 通 施 設	鉄軌道路線	○		
		鉄軌道駅	○		○
		駅出口			○
		バス路線	○		
		バス等の公共交通機関のターミナル			○
		バス停			○
		タクシー乗り場			○
	行 政 界	旅客船ターミナル	○	○	○
		市、区、町	○		○
	丁、番地			○	

出典：地図を用いた道路案内標識ガイドブック（編集・発行：財団法人 道路保全技術センター）

表 6 地図に表示するのが望ましい施設

		地図に表示する一般的情報	建物 シルエット	ピクト グラム	名称
施設	案内所	案内所(有人)		○	
		情報コーナー		○	
	公共(的)施設	官庁又はその出先機関	○	○	○
		警察署	○	○	○
		交番・派出所		○	交番 ^{※1}
		郵便局	○	○	郵便局 ^{※1}
		消防署	○		○
		国(公社、公団除く)の期間および公共地方 サービス機関、その他官署	○		○
		病院 (一次救急医療機関、二次救急医療機関)	○	○	○
		避難所(広域避難地、一次避難地、避難所)	○	○	○
		学校	○		○
		幼稚園、保育園	○		○
		体育館、運動場	○		○
	文化施設	公会堂、公民館、図書館	○		○
		大規模な公園、遊園地、動物園	○		○
		美術館、博物館、文化会館、劇場	○		○
	トイレ			○	
	名所、旧跡	神社、仏閣、寺院、教会、史跡	○		○
	大規模宿泊 施設／商業 施設、店舗	大規模なホテルおよび旅館	○	○	○
		大規模なデパート、スーパーマーケット	○	○	○
主要なレストラン			○		
銀行・信用金庫			○		

※ ベースマップ…線および面で構成される情報で基本的な情報として表示するもの
 建物シルエット…建物の外形を面的に表示するもの
 ピクトグラム…施設を意味する記号(標識令・標準案内用図記号^{※2}等)を表示するもの
 名称…市町村名、施設名称等の各名称を文字情報として表示するもの

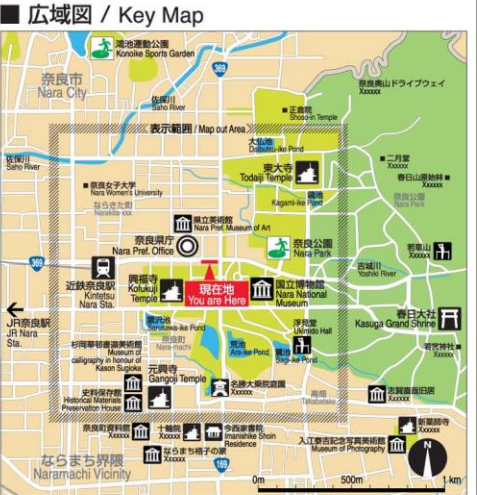
※1 固有名詞で表記するのではなく、「交番」、「郵便局」という表記をすることを指す。
 ※2 交通エコロジー・モビリティ財団が、日本財団の助成を得て設置した「一般案内用図記号検討委員会」で策定されたものである。委員会では1994年から約2年間の検討が行われ、2001年3月に125種類の図記号が「標準案内用図記号」として決定された。

出典：地図を用いた道路案内標識ガイドブック（編集・発行：財団法人 道路保全技術センター）

【参考：奈良公園周辺におけるモデル地図表示例】



現在地
Address 奈良市登大路町##
##, Naborioji-cho,
Nara City



- 凡例 / Legend**
- 主な観光コース / Main sightseeing Course
主要観光路線 / 주요 관광 코스
 - ♀ 停留所 / Bus Stop
公交车站 / 정류장
 - ❓ 案内所 / Information Office
询问处 / 안내소
 - i 案内地図 / Information Map
导游图 (旅行用) / 안내지도
 - P 駐車場 / Parking
停车场 / 주차장
 - 169 国道番号 / National Highway Route No.
国道号 / 국도번호
 - エレベーター / Elevator
电梯 / 엘리베이터
 - トイレ / Toilets
公共厕所 / 화장실
 - 🚰 避難場所 / Safety Evacuation Area
安全避难场所 / 대피소
 - 🏛️ 官公庁 / Govt. or Municip. Offices
政府机关 / 관공서
 - 🚉 鉄道駅 / Railway Station
火车站 / 전철역
 - 1 鉄道出口番号 / Railway Exit No.
铁路出口号码 / 전철역 출구 번호
 - TAXI タクシーのりば / Taxi Stop
出租汽车站 / 택시승강장
 - 🚌 バスターミナル / Bus Terminal
公交车总站 / 버스터미널
 - 👮 警察署 / 交番 / Police Station / Police Box
警察局 /派出所 / 경찰서 / 파출소
 - 📧 郵便局 / Post Office
邮局 / 우체국
 - 🏛️ 博物館 / 美術館 / 資料館 / Museum
博物馆 / 美术馆 / 资料馆 / 박물관 / 미술관 / 자료관
 - 🏪 大規模店舗 / 店舗 / Department Store / Shop
大型商场 / 商店 / 백화점 / 숍
 - 🏦 銀行 / Bank (Money Exchange)
银行 / 은행
 - 🏨 ホテル / 宿泊施設 / Hotel / Accommodation
饭店 / 旅馆 / 호텔 / 숙박시설
 - 🏯 寺院 / Temple
寺庙 / 절
 - 🏛️ 神社 / Shrine
神社 / 신사
 - 🏛️ 歴史的建造物 / Historical monument
历史建筑物 / 역사적 건축물
 - 📍 展望地 / View point
观景台 / 전망지
 - 🌳 庭園 / Garden
庭园 / 정원

- ①主地図
・表示サイズ：1m×1m
・表示範囲：2.5km×2.5km
・スケール：1/1,500
- ②広域図
・表示サイズ：25cm×25cm
・表示範囲：2.5km×2.5km
・スケール：1/10,000
- ③表示情報
・物理的な情報密度から「バス路線」、
「丁目・番地」は非表示

注：表示されている施設や横断歩道等は、モデル地図作成のため既存資料でわかる範囲を作成したものであり、現状と異なる場合があるため、最新情報による確認が必要である。

※モデル地図中の「Xxxx」、「###」は、ダミー文字を示す。中国語、韓国語等は、翻訳の一例である。

※平成 21 年 7 月時点の地図

3) 指示標識に表示する情報

- 表示する施設の数、情報過多を避けるため、目安として矢羽根は5施設・短冊は3施設程度までとする。多方向に指示する場合は、一方向につき3施設程度までを目安とする。
- 目的施設の名称、方向及び距離（m、またはkm）を表示する。
- 基本的に外国語（英語、中国語（簡体字）及び韓国語等）も併記する。

指示標識に関する現状の観光案内サインの問題として、一箇所での案内地名が多すぎて判りにくいという指摘がある。

そのため、情報過多を避け、かつ適切に誘導できるよう、アンケート等で得た観光客の周遊特性に基づき、観光客（特に初めて訪れる人）にとって必要最小限の地名を厳選して案内する。

a) 矢羽根

「図解標識の支柱」で規定している「構成」「表示内容」「色彩」の内容に準じて作成する。「表示数」の規定は以下を加える。

■表示数

指示標識の表示数は、5施設程度までという原則を踏まえることとするが、案内すべき施設の数や密度等の状況によっては、連続性を確保するため、例外的にやむを得ず表示数を1程度増加することも可能とする。

また、誘導すべき主要な施設が同一方向に複数ある場合で、それらを目的とするトリップが混在しており、連続性確保の観点からいずれの施設も省略できないと判断される場合は、例外的に一方向につき3施設まで表示することも可能とする。

b) 短冊（地図無）

「図解標識の短冊（地図有）」で規定している「構成」「縮尺・向き」「表示内容」「色彩」の内容に準じて作成する。

c) フットサイン

- 表示する施設の数、情報過多を避けるため、目安として4施設程度までとする。多方向に指示する場合は、一方向につき2施設程度までを目安とする。
- 目的施設の名称、方向及び距離（m、またはkm）を表示する。
- 基本的に外国語（英語）も併記してもよい。

現状の観光案内サインの問題として、空間制約により設置が困難な箇所が存在し、案内誘導の連続性が確保できず、誘導効果が十分に発現されていないケースが発生している。そのため、観光客への周遊促進を図ることを目的として、やむを得ない場合にかぎり、空間制約を受けずに設置しやすいフットサインによる案内も行うことができるものとする。

フットサインのサイズは、30cm×30cm、40cm×40cm、45cm×45cm等、地域の特性を踏まえて決定する。

なお、「表示すべき施設の選定」及び「表示順序」については、指示標識に準拠する。

d) 古道等サイン

- 表示する施設の数、情報過多を避けるため、目安として2施設程度までとする。多方向に指示する場合は、一方向につき1施設程度までを目安とする。
- 目的施設の名称、方向及び距離（m、またはkm）を表示する。
- 外国語（英語、中国語（簡体字）及び韓国語等）を併記してもよい。

起終点を結ぶ単一ルートで構成される古道等（山の辺の道、近畿自然歩道、東海自然歩道等）では、制約を受けずに設置しやすい観光案内サインによる案内を行うこととする。また、案内ルートの起終点が明確になっている場合は、起終点及び現在の位置が明確になるようその距離やポスト番号等を表示することも検討する。

【参考：表示例】

終点までの距離：「終点まであと〇〇km」、ポスト番号：「6/11」等

※分母はポスト総数、分子は起点からのポスト数を表示

※ポスト番号等の設置間隔は、地域の実情に合わせて設定する。その際、設置間隔が近接する場合は、ポスト番号等を省略することも可能とする。

「表示すべき施設の選定」及び「表示順序」については、指示標識に準拠する。

■表示すべき施設の選定

表示すべき施設の選定は以下を基本とする。

観光施設	主要施設	原則としてすべての主経路上で表示。 周遊促進経路上では近くの主要施設を表示。	} 現地の状況に応じて適宜選択する。
	周遊促進施設	主要施設からの派生的な周遊を想定し、原則として、最も近い主要施設との間の経路上で表示する。	
帰路方向		原則として、すべての経路上で表示する。	
バス停等		起点及び各主要施設では、必要に応じて、直近のバス停も指示標識で案内する。	

ただし、表示数に限りがある等の場合は、以下を基本として表示する施設を選定する。

- ・人の流れに沿った方向にある施設を優先的に表示する。
- ・来訪者数の多い施設、魅力度評価の高い施設、近い方の施設を優先的に表示する。
- ・複数の施設を併記する。

表 7 指示標識に施設を表示しない、または総称や連名で表示する場合の考え方

判断ケース	現地の状況(例)	対応方針	具体例
やむを得ず表示しない	人の流れから見て、当該指示標識で誘導する必要性や効果が低い場合等	主要施設であっても、表示の優先順位を下げ、他の施設を表示する。	国立博物館 } 奈良公園東側では優先順位を下げる。 興福寺
	同ランクの複数施設が近接	来訪者数の多い施設 魅力度評価の高い施設 近い方の施設 } を優先的に表示し誘導する。	二月堂 (高魅力度)を優先的に表示
やむを得ず連名等で表示	複数施設を含む範囲を総称する名称がある	総称で表示し誘導する。 距離は、その範囲の最も近い地点までの距離を表示する。	JR 奈良駅方面から東向きに「奈良公園」と表示
	車両系サイン等で連名表示あり	連名で表示し誘導する。 距離は、知名度の高い施設までの距離を表示する。	「元興寺・ならまち」と表示
	複数表示が不可欠(帰路等)	連名で表示し誘導する。 距離は、個別に表示する。	「近鉄奈良駅・JR 奈良駅」と表示

■表示順序

指示標識の基本的な表示順は、上段に主要施設（現地の状況に応じて選択する）、下段に周遊促進施設のうち距離的に近いものを表示する。

■多言語表示

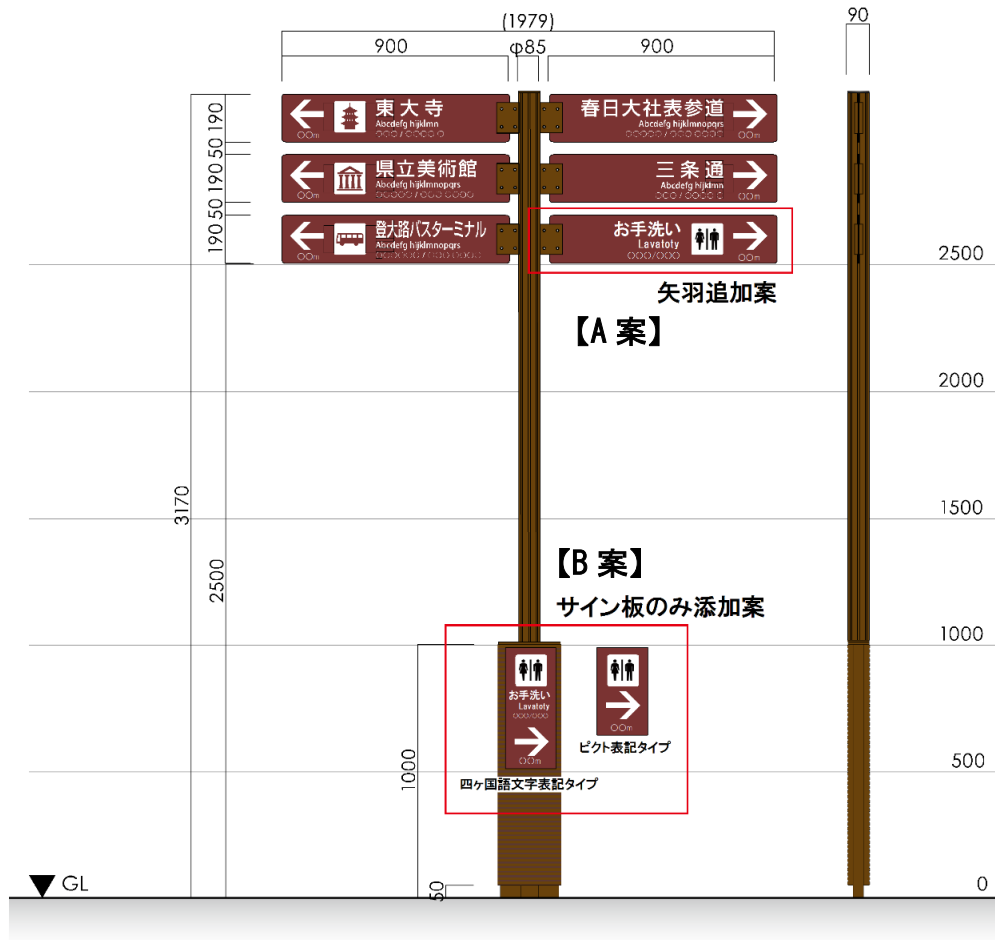
指示標識に表示する外国語は、基本的に英語、中国語（簡体字）及び韓国語等とする。



図 5 指示標識の多言語表示例

【参考：お手洗いの観光案内サインのデザイン（案）】

主に観光客に対して、お手洗いの位置及び距離を示す観光案内サインの設置について検討する。



※電柱や道路標識にも、シールや薄型パネル板等にて添加可能



四ヶ国語文字表記タイプ



ピクト表記タイプ

【事例】

ならクル自転車サイン電柱
添加タイプ

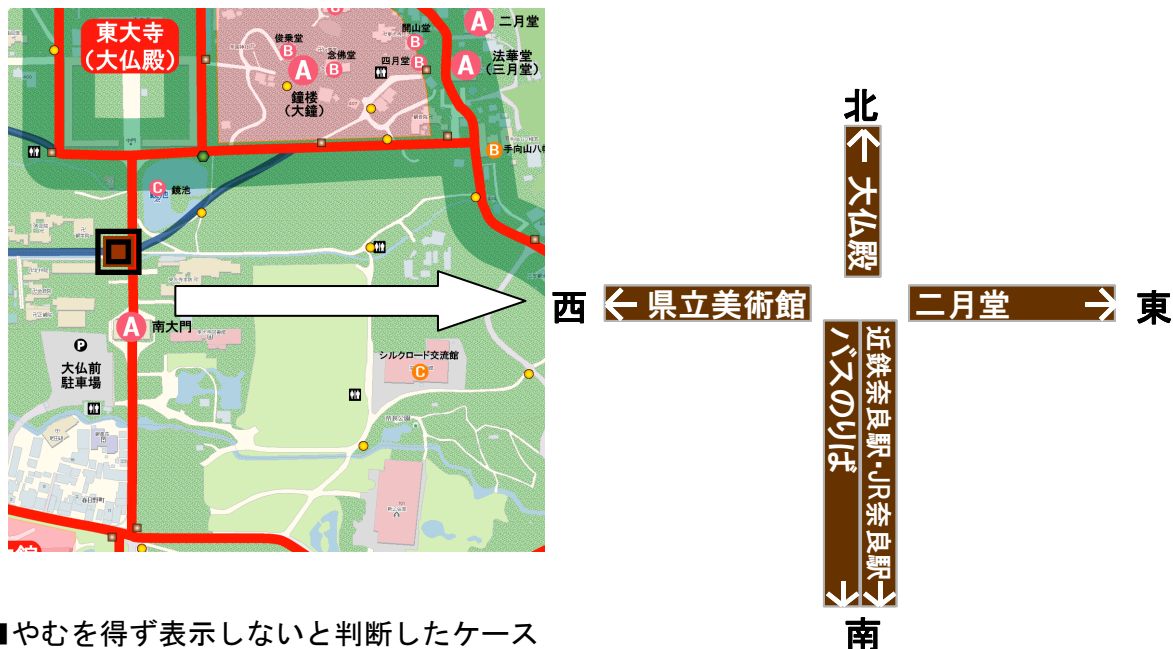


ならまち照明灯添加タイプ



【参考：奈良公園周辺における案内対象施設の選定例】

南大門北側の交差部の例では、案内対象となる施設が多数あることから、以下のような観点から、表示施設を選定した。



■ やむを得ず表示しないと判断したケース

- ・ 東向きには、周遊促進施設3施設が密集（二月堂、法華堂、鐘楼）しているが、本地点から直接これらへ向かう人は少ないことから、代表として、魅力度高評価を得た「二月堂」1地点のみを表示する。
- ・ 南向きには、東大寺以外の主要施設があるが、境内を出た地点から誘導を開始することが適切であるため、本地点では個々の施設を表示しないこととする。

■ やむを得ず連名で表示すると判断したケース

- ・ 南向きには、帰路方向を表示するが、近鉄・JRのいずれも表示が不可欠で、同一方向にあるため、連名で表示する。

4) 周遊促進標識に表示する情報

- 周辺にある諸施設に興味を持たせ、行ってみたいと思わせるよう、これらの施設の特徴や魅力、施設までの移動所要時間、休館日等を説明した簡潔な文章及び写真を表示する。
- 基本的に外国語（英語、中国語(簡体字)及び韓国語等）も併記する。

周遊促進標識に記載する文章表現における留意点を以下に示す。

- ・施設や行事等に通称がある場合は、正式名称を記載した上で、続けて（ ）で通称名を記載する。 → (例) 修二会（お水取り）
- ・仏像を紹介する場合は、単に「〇〇像」ではなく、「〇〇座像」、「〇〇立像」と表現することで、正確性が高められる。 → (例) 阿修羅立像
- ・紹介文には、その対象の姿や状態を形容したり描写する言葉を加えることによって、読む人に想像させ、行ってみたいと思わせるきっかけとなる。
→ (例) 張り出して立つ回廊からの眺め
- ・文章表現について、簡素簡潔にまとめるためには体言止めがふさわしいが、周遊を促す上で、文末に形容詞や動詞等を用いた表現の方がふさわしい場合は、これらの文章表現が標識中に混在しても良い。 → (例) ことのほか美しい
- ・紹介文は、箇条書き 3 文までに納めた方が良いが、知名度は低いが満足度の高い施設については、紹介文を増やしても良い。

南方向 / Southerly direction / 往南方向 / 남쪽 방향

新薬師寺
Shinyakushi-ji Temple
新药师寺 / 신약사지 절

徒歩で約〇分
It is on foot and is about 〇 minutes
步行约〇分钟 / 도보로 약〇분

見どころ / Viewpoint / 观光景点 / 볼거리

- 本堂(国宝)は創建当初の唯一の遺構
The Main Hall (National Treasure) is the only one of the original temple buildings to survive.
本堂(国宝)是创建时期保存至今的唯一建筑。/ 본당(국보)은 창건 당시의 유일한 자취.
- 桜の花時の「おたいまつ」行事(4月8日)は庄巻
The highlight is Otaimatsu (the Torchlight Festival) (April 8) during the cherry blossom season.
春天樱花盛开之时的“松明”盛事(4月8日)最为隆重。/ 꽃이 피는 시기의 [오타이마츠(횃불)] 행사(4월8일)는 압권.
- 秋の境内を彩る萩の花
The flowers of the Japanese bush clover color the temple grounds in fall.
秋季胡枝子花为寺庙增添色彩。/ 가을 경내를 수놓는 싸리꽃.
- 塑像十二神将立像(うち11体は国宝)はわが国最古のもの
The standing clay figures of the Junishiinsho (Twelve Heavenly Generals) (eleven of which are National Treasures) are the oldest and largest in Japan.
十二神将立像(其中11尊为国宝)是日本最古最大的塑像。/ 최고(最古) 최대의 소조십이신장 일상(그중 11체가 국보).




図 6 周遊促進標識の多言語表示例

【参考：奈良公園周辺における周遊促進標識の検討例】

表 8 奈良公園周辺における周遊促進標識の検討例

東大寺からの周遊	春日大社からの周遊	興福寺からの周遊	国立博物館からの周遊
<p>■二月堂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・張り出して立つ回廊からの眺めが素晴らしい(国宝)。 ・修二会(お水取り)の行事で有名。 	<p>■春日山遊歩道</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1000年以上手つかずの春日山原始林(世界遺産、特別天然記念物)を一周する遊歩道。 ・春と秋のもみじはことのほか美しい。 ・春日山石窟仏等、多数の石仏あり。 	<p>■興福寺国宝館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏像、古文書等の国宝・重要文化財を多数展示。 ・阿修羅立像(国宝)等の傑作仏像多数。 	<p>■県立美術館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に奈良県下で活躍した芸術家の作品を展示。
<p>■戒壇院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天平彫刻の傑作とされるほぼ等身大の四天王立像(国宝)。 	<p>■春日大社宝物殿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春日大社に伝わる国宝・重要文化財を多数展示。 ・平安から鎌倉、南北朝時代にかけての美術工芸品等多数。 	<p>■県立美術館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に奈良県下で活躍した芸術家の作品を展示。 	<p>■浮見堂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鷺池に浮かぶ六角形の休憩施設。 ・桜、紅葉等が美しい。 ・ボート遊びもあり。
<p>■正倉院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高床の校倉造りで有名な正倉(国宝)。 ・宝物は非公開(毎年秋に国立博物館で正倉院展を開催)。 ・正倉の外観のみ見学可(平日のみ)。 	<p>■新薬師寺</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本堂(国宝)は創建当初の唯一の遺構。 ・桜の花時の「おたいまつ」行事(4月8日)は圧巻。 ・秋の境内を彩る萩の花。 ・最古最大の塑造十二神将立像(うち11体は国宝)。 	<p>■ならまち界隈</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元興寺(世界遺産)を中心とした旧市街地。町並み散策に好適。 ・大和格子等の伝統的な町屋が立ち並ぶ。 ・木辻遊廓跡周辺は、中將姫伝説にまつわる寺が点在。 	<p>■ならまち界隈</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元興寺(世界遺産)を中心とした旧市街地。町並み散策に好適。 ・大和格子等の伝統的な町屋が立ち並ぶ。 ・木辻遊廓跡周辺は、中將姫伝説にまつわる寺が点在。

(4) 観光案内サインの配置計画

1) 観光案内サインの配置に関する基本的な考え方

誘導経路における観光案内サインの配置に関する基本的な考え方は、以下に述べるとおりである。

①主経路における観光案内サインの配置に関する基本的な考え方

- ・観光時の主経路となる起終点、分岐点、交差点等に観光案内サインを設置
- ・観光施設が広範囲となる場合（例えば、奈良公園、郡山城下町、飛鳥等）は、その周縁部や施設までの主経路上に観光案内サインを設置

②周遊促進経路における観光案内サインの配置に関する基本的な考え方

- ・主経路を補完して周遊観光を促進するため、経路の分岐点、交差点等に観光案内サインを設置

※交差とは、主経路または周遊促進経路における主要な交差点部を指す。

※分岐とは、主経路と周遊促進経路との交差点部を指す。

2) 観光案内サインの種類組み合わせ

○観光案内サインを組み合わせて、わかりやすい案内誘導を行う。組み合わせの種類を整理すると、以下の3つに分類できる。

・大拠点：広域な地図に基づく面的な案内を行う箇所

例：図解標識(支柱)、図解標識(支柱)＋指示標識(矢羽根)、
図解標識(支柱)＋指示標識(矢羽根)＋周遊促進標識(支柱)等

・中拠点：施設周辺の地図に基づく面的な案内を行う箇所

例：図解標識短冊(地図有)、指示標識(矢羽根)＋地図等

・小拠点：目的の施設(ルートの起終点を含む)の方向、距離などの案内を行う箇所

例：指示標識(矢羽根)、指示標識短冊(地図無)、

指示標識(フットサイン)、指示標識(古道等サイン)等

表 9 歩行者系の観光案内サインの分類と機能概要 (1/2)


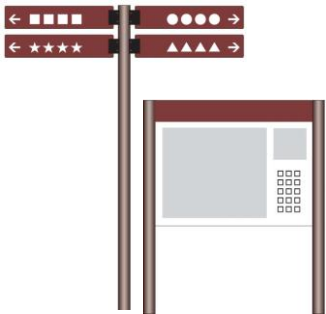
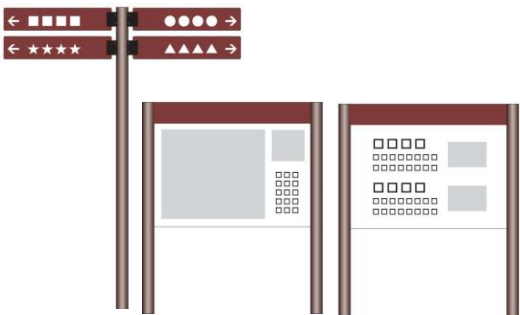
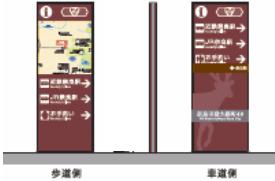


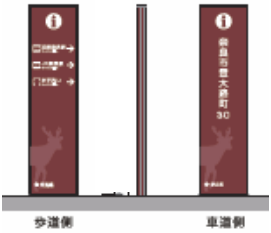



分類	種類	機能概要	姿イメージ(例)
大拠点	図解標識 (支柱)	地図をメインに表示し、現在地・周辺の目的の観光施設等の位置関係を面的に表示。	
	図解標識 (支柱) ＋ 指示標識 (矢羽根)	地図をメインに表示し、現在地・周辺の目的の観光施設等の位置関係、目的とする観光施設等への方向および距離等を表示。	
	図解標識 (支柱) ＋ 指示標識 (矢羽根) ＋ 周遊促進 標識 (支柱)	地図をメインに表示し、現在地・周辺の目的の観光施設等の位置関係、目的とする観光施設等への方向および距離等、主要観光施設周辺において、次の周遊を促進するために、特徴・魅力を伝える写真等を用いて表示。	

表9 歩行者系の観光案内サインの分類と機能概要 (2/2)

分類	種類	機能概要	姿イメージ (例)
中拠点	図解標識短冊 (地図有)	地図をメインに表示し、現在地・周辺観光施設等の位置関係を面的に表示。	
	指示標識 (矢羽根) + 地図	目的の観光施設等への方向及び距離等を表示。観光施設の位置関係を表示。	
小拠点 (分岐点含む)	指示標識 (矢羽根)	目的の観光施設等への方向及び距離等を表示。	
	指示標識短冊 (地図無)	標識により、目的の観光施設等への方向及び距離等を表示。	
	指示標識 (フットサイン)	足下への案内誘導により、目的の観光施設等への方向及び距離等を表示。	
	指示標識 (古道等サイン)	古道等において、目的の観光施設等への方向及び距離等を表示。	
経路標識	補足標識 (古道等サイン)	古道等において指示標識の補足として設置。起終点までの距離ポスト番号等を表示。	

3) 観光案内サインの標識別配置方針

標識別の観光案内サインの配置方針は、以下に示すとおりである。

【大拠点】

- 鉄道駅や主要な駐車場等、観光行動の起点にも配置する。
- 周遊促進経路上では、歩行者の「たまり」空間、視認性の良い箇所等、歩行上の主要な地点に配置する。

【中拠点】

- 主経路上のまぎらわしい分岐点・交差点等に必要な応じて配置する。
- 周遊促進経路上では、基本的に分岐点・交差点に配置する。
- 迷いやすい区間では、経路に沿って指示標識をきめ細かく設置することで対応するが、必要な応じて経路案内標示の追加による補足的な案内も検討する。

【小拠点】

- 主経路上のまぎらわしい分岐点・交差点等では、必要な応じて指示標識による案内を行う。
- 周遊促進経路上では、基本的に分岐点・交差点に配置する。
- 迷いやすい区間では、経路に沿って指示標識をきめ細かく設置することで対応するが、必要な応じて経路案内標の追加による補足的な案内も検討する。

■大拠点

- ・矢羽根は、主経路上に基本的に図解標識に併設するが、図解標識と一体的な構造が不適切な箇所（実際の方向を正確に指示できない場合等）ではこれらを分離する等、現地の状況に応じて柔軟に対応する。
- ・周遊促進標識は、周遊の核となる主要施設に配置する。また、主要施設を訪問し終えた観光客が、次の行動に移る際に目にすることができるよう、施設の出口付近に配置することを基本とする。

■中拠点・小拠点

迷いやすい区間における指示標識の追加設置位置は、以下のような地点を基本とし、現地の状況に応じて適切に選定する。

- ・分岐のない長い区間の中間部
- ・見通しの悪い屈曲部
- ・見通しの悪い坂、階段等の上下部

○経路地案内標の考え方

以下のような条件の場合は、経路の先に何があるかを表示した「経路地案内標」の設置も検討する。

- ・見通しが悪く、先へ進むことをためらうような区間において、位置関係を示すための図解標識の設置が困難、または経路地案内標を設置する方が合理的な場合
- ・現地の状況から、指示標識をきめ細かく設置することが困難な場合 …等

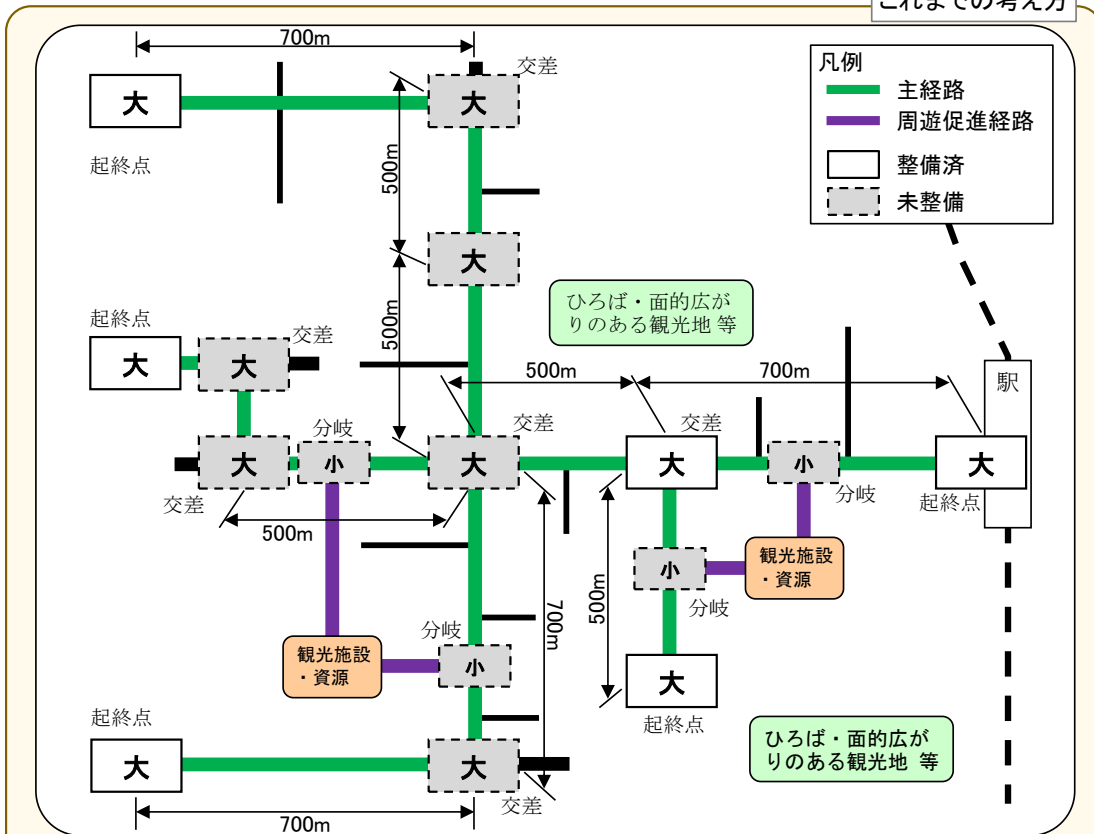
○固有番号標の考え方

以下のような条件が整った場合には、各地点固有の記号・番号を表示し、現在位置等を識別させる固有番号標の導入の可能性も検討する。

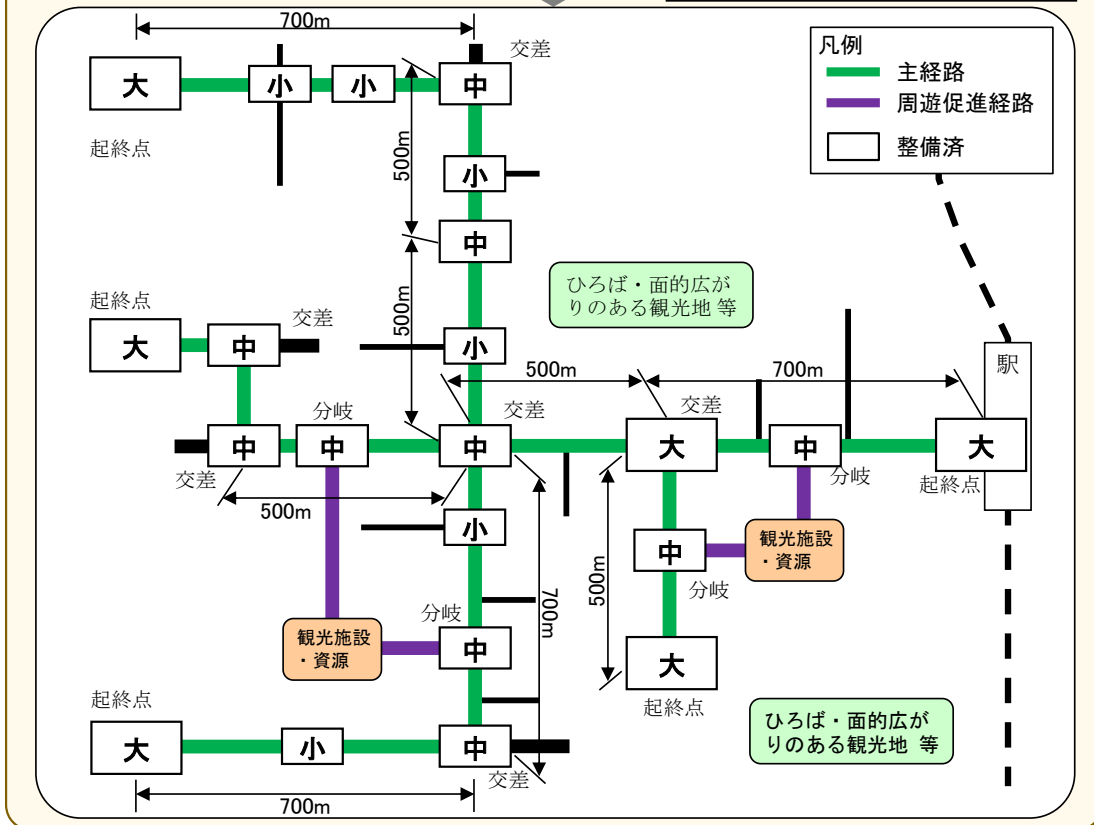
- ・閉鎖的なエリア内、または経路内において、統一した設置が可能な場合
- ・手持ち地図やガイドブックにも同様の番号を記載することが可能な場合
- ・番号等による位置確認方法が広く一般観光客に周知されている場合

【観光案内サインの配置方針】

これまでの考え方

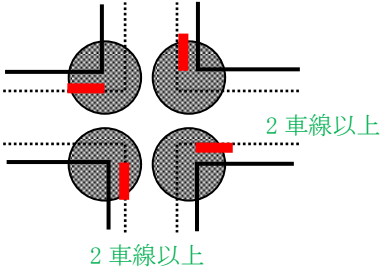
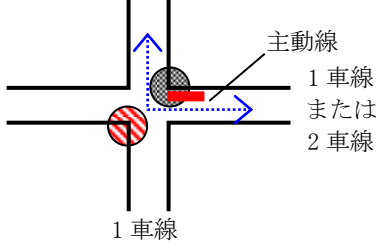
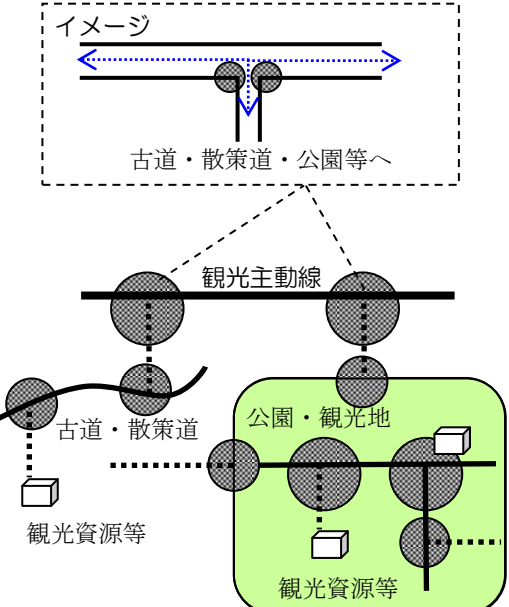


※設置スペースが無い、調整が困難、コストがかかる等の理由により、以下を基本に考える。



4) 観光案内サインの設置位置に関する方針

観光案内サインの設置対象位置に関する基本的な考え方は、以下に示すとおりである。

設置対象位置	設置の考え方（案）	備考
<p>2車線以上の交差点</p> <p>【対象例】</p> <p>2車線同士の交差点</p> <p>2車線と2車線以上の交差点</p>	<p>●：サイン設置範囲</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・各角に合計4箇所設置 ・通りに面し、縦断方向に設置 ・歩道上の車道寄りに設置
<p>1車線の交差点</p> <p>【対象例】</p> <p>1車線同士の交差点</p> <p>1車線と2車線の交差点</p>	<p>●：サイン設置範囲</p> <p>⊘：設置検討範囲</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・動線方向から視認しやすい角 ・主経路の角に設置（経路に対して、平行に設置することを基本とする） ・可能であれば、対角上に1箇所、合計2箇所設置する ・歩道上の車道寄りに設置
<p>古道・散策道・公園等への案内誘導</p>	<p>●：サイン設置範囲</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・古道・散策道・公園等の主経路の交差点、分岐部 ・観光施設が広範囲となる場合は、その周縁部や施設までの主経路上に観光案内サインを設置

5) 観光案内サインの設置位置の考え方補足

○標識の設置位置は、安全性、視認性、設置方向等に配慮して選定する。

標識の設置位置の考え方を以下に示す。

■ 交差点における設置位置の考え方

- ・トリップ数の多い主要な動線上からサインの存在を容易に認知できるような位置を選定する。
- ・図解標識の場合は、観光客の主要な動線に対して平行または正面に向くよう設置することを基本とし、現場の状況に応じて適切に判断する。

■ 見通しの悪い屈曲部等における設置位置の考え方

- ・遠方からでもサインの存在を認知できるよう、極力屈曲部の外側で位置を選定する。

■ 色彩による視認性からの設置位置の考え方

- ・サイン設置位置は、選択が可能な場所では、視認性を考慮して背景とのコントラストの高い位置（サインの基調色が蘇芳色（すほういろ）のため、背景が明るい位置）が望ましい。

■ 設置できない箇所の考え方

- ・交差点部で視距が確保出来ない場合。
- ・歩道幅員が狭い等のため 通行を阻害する、または車道と隔離された安全な「たまり空間」がない場合。

■ 夜間多くの方が訪れる場所での考え方

- ・来訪者が夜間多く訪れる場所には必要に応じ照明の設置を検討する。

6) 指示標識の連続性検証

- 指示標識で案内する具体的内容について、確実に案内される計画になっているかどうか検証を行う。

指示標識の案内地名が一連の動線の中で途切れていたり、矛盾があると、観光客が道に迷う原因にもなるため、指示標識の配置および案内内容が決定した時点で、連続性の検証を行う。

【参考：奈良公園周辺における検証例】

奈良公園周辺における検証例を以下に示す

表 10 指示標識の連続性検証の内容例（奈良公園周辺）

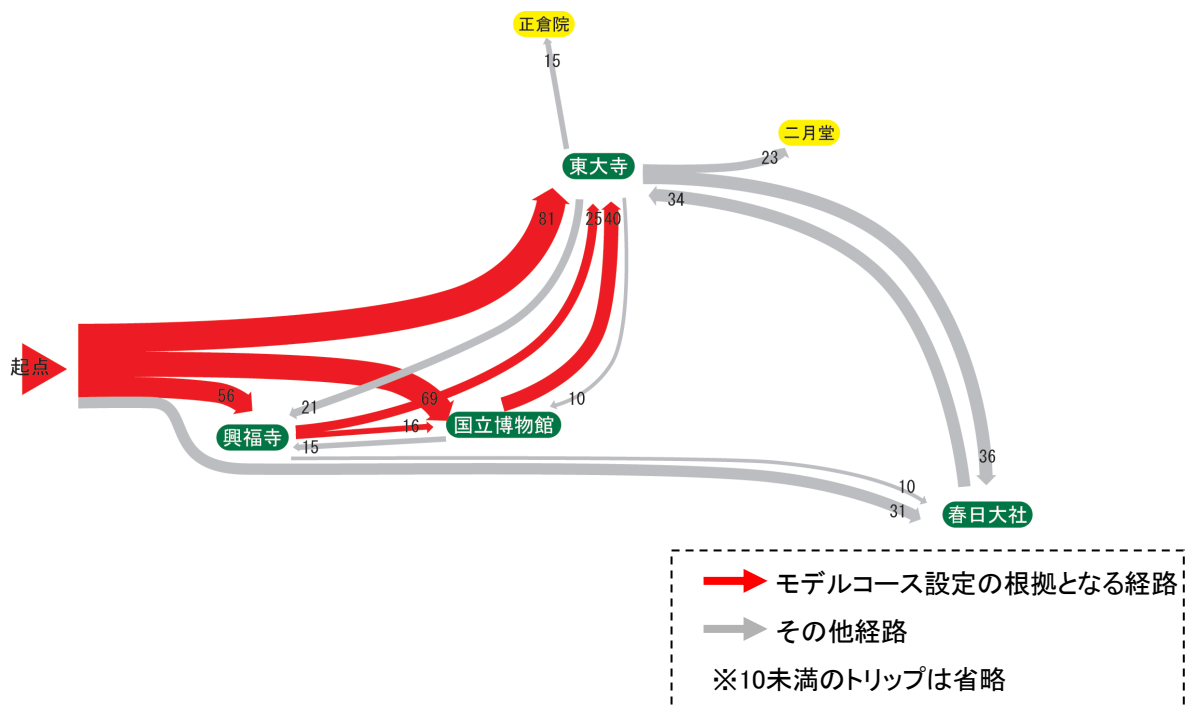
検証方法	・モデルコースを設定し、その経路上の表示を確認する
検証内容	・主要なコースにおける指示標識の連続性 ・交差道路等から合流する場合等における指示標識の連続性

■ モデルコース設定の考え方

- ・ビギナーでは、計 265 人のうち、東大寺への来訪者が 191 人（72%）と最も多く、東大寺を中心とした周遊が多いと考えられる。
- ・東大寺への流入は、観光の起点から直接、または国立博物館・興福寺を経由したものが多。



モデルコースは、近鉄奈良駅から東大寺へのルートとする。



■ 検証結果の表示例

(各地点の表示内容を連続的に整理する)



(参考写真を付加した例)



※图中的合成写真は標識の概ねの設置位置を示したものであり、実際の見え方を正確に表現したものではない。

(5) 観光案内サインのデザイン

観光案内サインのデザイン等については、以下に示すとおりである。

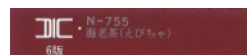
1) デザインコンセプト

- 奈良をイメージできるモチーフや形の取り込み
- 社寺、街並み、大和青垣など多彩な沿道景観との調和
- 初めて見る人に見やすく分かりやすい表示内容

2) 基調色と基本形状

- 基調色は、蘇芳色（すほういろ）とする。
- 指示標識は矢羽根タイプ、図解標識は支柱タイプを基本とする。
- 図解標識の高さは、歩行者および車いす使用者が共通して見やすい高さとする。
- iマークは、図解（地図）標識を見つけやすい高さで設置する。

基調色：蘇芳色（すほういろ）

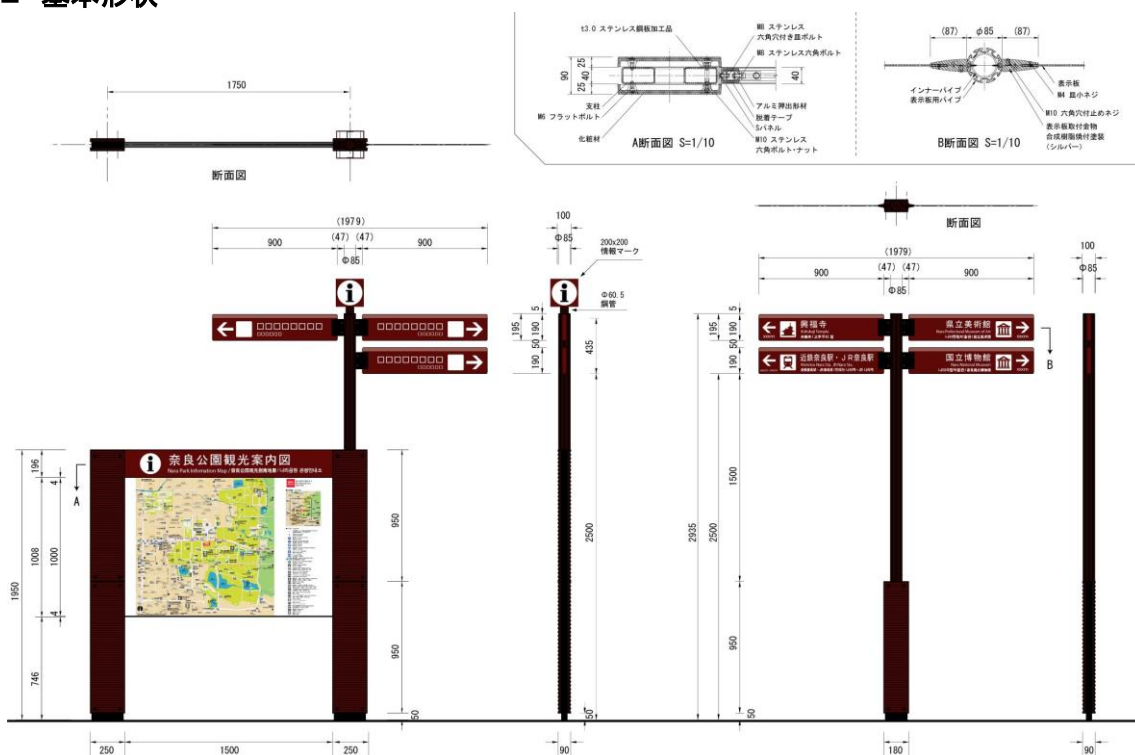


【奈良県の蘇芳色】（濃色）
マンセル記号 5R2/6(県HP)
DIC-755 (5R2/6の近似色)

図解標識の地図中心の高さは125cm、指示標識の矢羽根下端の高さは250cm（歩道建築限界）を基本とする。

【参考：奈良公園周辺におけるデザイン検討例】

■ 基本形状



【参考：奈良公園周辺におけるデザイン検討例】

■ 裏面デザイン

奈良公園周辺における図解（地図）標識の裏面デザイン案を以下に示す。なお、周遊促進標識の裏面については、ウォームグレー単色を採用する事を基本とする。裏面（車道側）で車の誘導を実施する場合は、行き先や住所についても表示する。



対面歩道等から裏面が見える場合

【濃グレー】 C:0 M:8 Y:15 K:70
 【薄グレー】 C:0 M:8 Y:15 K:45
 【iマーク】 C:0 M:0 Y:0 K:100

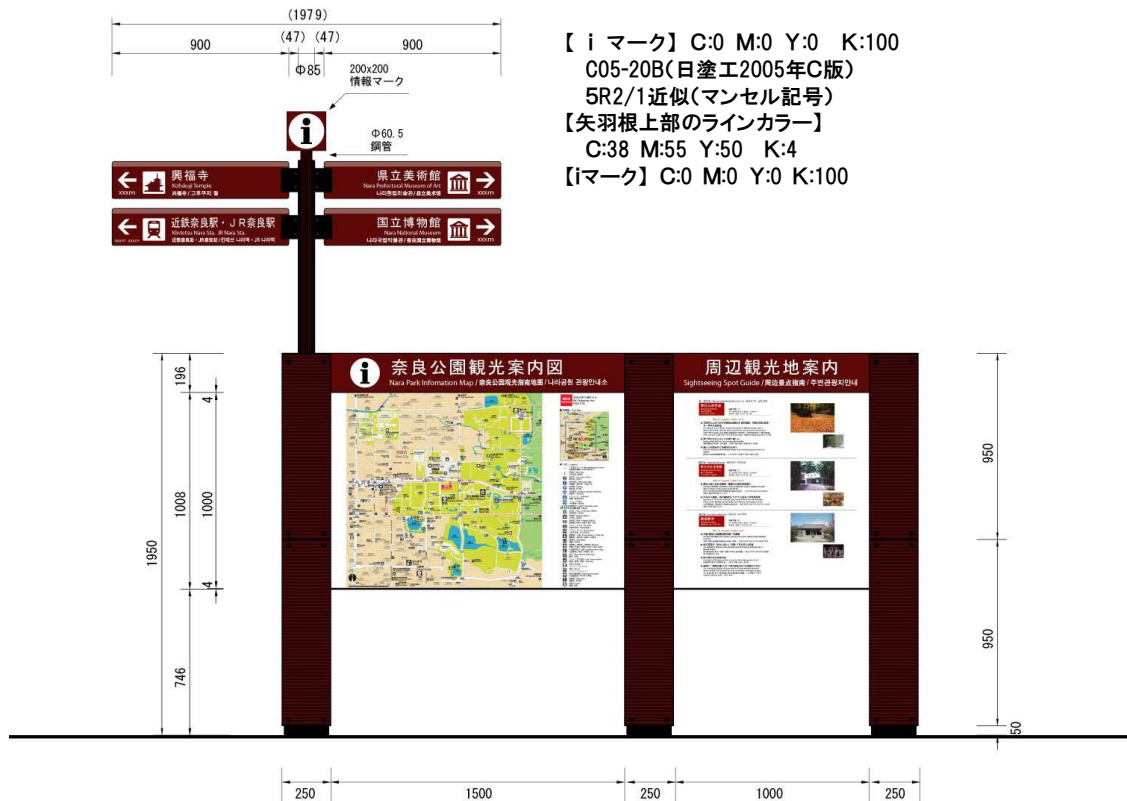
少しだけ裏面が見える場合

【グレー】 C:0 M:8 Y:15 K:5

壁面等に沿って設置され、裏面が見えない場合

■ 周遊促進標識との組み合わせ例

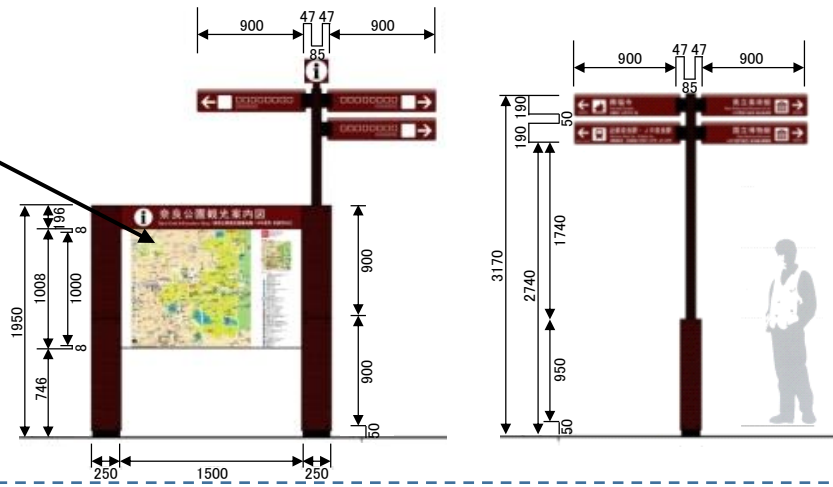
図解標識、指示標識および周遊促進標識を組み合わせた例を以下に示す。



【デザイン案】

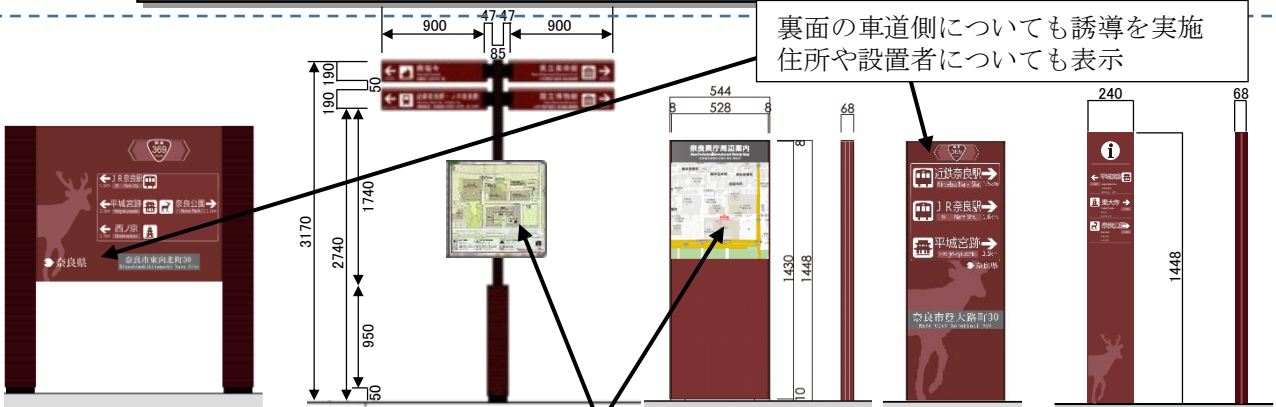
サインのイメージ図

地図対象範囲：1.5 km四方
 地図サイズ：1,000mm×1,000mm
 設置：主要動線の起終点



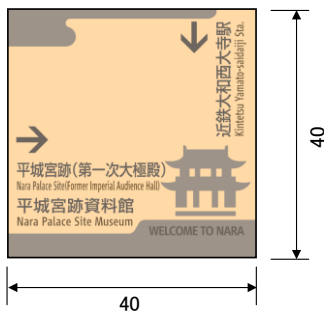
新規で補足・充実するサインのデザインイメージ図

裏面の車道側についても誘導を実施
 住所や設置者についても表示



地図対象範囲：250m～1 km四方程度
 (設置場所・案内対象施設の立地状況によって考慮)
 地図サイズ：550mm～600mmを想定
 設置：主要動線上の交差点・分岐点 ※図解標識と同様の地図を使用

フットサインの現時点でのデザインイメージ図



古道等サインのデザインイメージ図



地域に合ったデザインの検討

【参考：県庁周辺の観光案内サインのデザイン】

各施設管理者により設置されていた不統一なデザインの観光案内サインが乱立していたため、デザインを統一した観光案内サインに再整備している。お手洗いのピクトに着色し、お手洗いの場所をわかりやすく表示したり、設置者がわかるように、奈良県と奈良県章を表示している。

また、道路照明等が設置されておらず、暗がりになっている箇所に関しては、照明設備を合わせて整備している。

